

## 4 KYT基礎4R法

### (1) KYT基礎4R法とは

チームでイラストシートや現場・現物で職場や業務にひそむ危険を発見・把握・解決していくKYTの基本手法です。繰り返し訓練することにより、一人ひとりの危険感受性を鋭くし、集中力を高め、問題解決能力を向上させ、実践への意欲を高めることをねらいとした訓練手法です。

### (2) KYT基礎4R法の進め方

イラストシートに描かれた、職場や業務の状況の中に「どんな危険が潜んでいるか」をメンバーのホンネの話し合いで問題解決の4つの段階(ラウンド)を経て、段階的に進めていきます。(表3-3)

表3-3 KYT基礎4R法の概要

ラウンド		手 順
1ラウンド	現状把握	どんな危険が潜んでいるか
2ラウンド	本質追究	これが危険のポイントだ
3ラウンド	対策樹立	あなたならどうする
4ラウンド	目標設定	私たちはこうする

導 入 : 整列・番号・挨拶・健康確認

### 第1R：現状把握・・・どんな危険が潜んでいるか

●イラストを見て、考えられる危険をどんどん出し合います



## 第2 R：本質追究・・・これが危険のポイントだ

- 重要と思われる項目に○印をつけます
- さらに、絞り込んで「危険のポイント」とし、◎印とアンダーラインを引きます
- ◎印の危険のポイントをメンバー全員で指差し唱和します



シートNo.○ チーム△  
 1R **2R**

- 1.力を入れてもみ洗いしたので、はねた水が目に入る
- ②.脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので脚立がぐらついてよろけて落ちる
- ③.脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる
- 4.脚立を昇りながら窓に近づこうと窓寄に足を乗せたので、濡れた踏みさんですべり転落する
- ⑤.脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので、脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ

## 第3 R：対策樹立・・・あなたならどうする

- 「危険のポイント」を解決するにはどうしたらよいか、話し合いで対策案を出し合います



## 第4R：目標設定・・・私たちはこうする

- 第3Rで出した対策案の中から重点実施項目を決める
- それに※印とアンダーラインを引く
- 重点実施項目をチーム行動目標に具体化する



## 確認：KYTをしめくくる

- 指差し呼称項目を設定し、指差し唱和で確認する
- タッチ・アンド・コールでKYTを締めくくる



## 模造紙記入例

シートNo.○

チーム△

1R **2R**

1.力を入れてもみ洗いしたので、はねた水が目に入る

② 脚立から離れた窓を拭こうと身を乗り出したので、脚立がぐらついてよろけて落ちる

③ 脚立から飛び降りて、着地した時よろけて足をひねる

4.脚立を昇りながら窓に近づこうと窓寄に足を乗せたので、濡れた踏みさんですべり転落する

⑤ 脚立から降りて、拭き具合を見ながら後ずさりしたので、脚立のそばのバケツに足をひっかけ転ぶ

3R **4R**

2-1 脚立を正面に置く

2-2 脚立の反対側に昇る

※2-3 脚立をこまめに動かす

### チーム行動目標

脚立を使って窓拭きをする時は、

脚立をこまめに動かして行おう ヨシ!

① 指 脚立位置 正面 ヨシ!

### KYT基礎4R法 手法のまとめ

準備	1チーム5～6人	役割分担 (リーダー・書記・レポート係・発表者・コメント係) 模造紙・レポート用紙 配布
導入	[全員起立]リーダー=整列・番号、挨拶、健康確認	
1R	<b>現状把握</b> どんな危険が 潜んでいるか	リーダー=状況読み上げ “危険要因”と引き起こされる“現象(事故の型)” 「～なので～になる」「～して～になる」 「～なので～して～になる」 <span style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px;">5項目以上</span>
2R	<b>本質追究</b> これが危険の ポイントだ	(1)重要と思われる項目→○印<合意不要> (2)○印項目→絞り込み <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1～2項目</span> <全員の合意> (3)→◎印・アンダーライン=危険のポイント (4)危険のポイント→指差し唱和 リーダー「危険のポイント～なので～して～になる ヨシ！」 →全員「～なので～して～になる ヨシ！」
3R	<b>対策樹立</b> あなたなら どうする	危険のポイントに対する具体的で実行可能な対策<合意不要> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各3項目程度</span>
4R	<b>目標設定</b> 私たちはこうする	(1)絞り込み <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各1項目</span> <全員の合意> →※印・アンダーライン=重点実施項目 (2)チーム行動目標設定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各1項目</span> <全員の合意> (3)チーム行動目標→指差し唱和 リーダー「チーム行動目標～するときは～を～して～しよう ヨシ！」 →全員「～するときは～を～して～しよう ヨシ！」
確認	(1)指差し呼称項目設定 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">各1項目</span> <全員の合意> 危険のポイントに対して安全を確認する項目、焦点を絞って見る“対象”と“確認する内容”をズバリとらえる。 (2)指差し唱和 リーダー「指差し呼称項目 ○○ ヨシ！」 →全員「○○ ヨシ！」(3回唱和) (3)タッチ・アンド・コール リーダー「ゼロ災でいこう ヨシ！」 →全員「ゼロ災でいこう ヨシ！」	

### (3) 第1ラウンドの“危険”のとらえ方と表現の仕方

#### ① イラストシートの中の作業者になりきろう

第1ラウンドの現状把握では、イラストシートの中の作業者の身になりきって、自分が作業しているつもりでシートを見ます。

#### ② 危険を“危険要因”と“現象”の組合せで表現しよう



#### ③ “現象”は“事故の型”で言い切ろう

この作業の「不安全な行動」と「不安全な状態」によって引き起こされるであろう危険の“現象”を“事故の型”でとらえ、次のようにズバリと言い切ります。

落ちる	ころぶ	ぶつかる	足を打つ	頭に当たる
挟まれる	巻き込まれる	下じきになる	手を切る	手をこする
やけどする	感電する	腰を痛める	腰をひねる	目にホコリが入る

- 「～かもしれない」「～の危険がある」「～の恐れがある」などはいりません。
- 事故の結果[ケガ(ねんざ 骨折)死亡]については発言する必要はありません。

#### ④ “危険要因”はできるだけ“不安全行動(動作)”と“不安全な状態”の組合せで表現しよう

危険要因は通常、「不安全な行動」と「不安全な状態」の組合せからなります。このため、危険要因を表現するときはできるだけ「不安全な行動」と「不安全な状態」が明らかになるよう表現します。

(例) 窓の拭き具合を見ながら脚立を降りたので、濡れた“踏みさん(ステップ)”で滑って落ちる。

